

2019 年度  
第 2 回 北海道 CG 人材育成委員会  
議 事 録

会議日付： 2019 年 8 月 26 日（月）

会議時間： 17：00～18：45

会議場所： 吉田学園情報ビジネス専門学校 4 階 402 教室

議長： 橋本 直樹

書記： 北村 吉正

出席者： 安保 英樹（株式会社アレクト 取締役副社長/CTO）

小林 隆志（exsa 株式会社 札幌スタジオ所長）

小椋 透（株式会社 G-Style CG 制作部モーションリードデザイナー/広報）

篠原 たかこ（公益財団法人画像情報教育振興協会 教育事業部部長）

戸田 隆元（株式会社ボーンデジタル 取締役）

佐藤 幸夫（学校法人片柳学園 日本工学院北海道専門学校 教育部 課長補佐）

田中 政史（学校法人美専学園 北海道芸術デザイン専門学校 マルチメディアデザイン学科長）

橋本 直樹（吉田学園情報ビジネス専門学校 副校長）

千葉 一俊（吉田学園情報ビジネス専門学校 学科長）

川東 博之（吉田学園情報ビジネス専門学校 主任）

井畑 弘恵（吉田学園情報ビジネス専門学校 事務部）

北村 吉正（吉田学園情報ビジネス専門学校 教員）

欠席者： 柏尾 典秀（学校法人栗原学園 北見情報ビジネス専門学校 理事長）

## < 議 事 録 >

### 1. CG 制作業務実践授業について

#### (ア) 実施原案について

- ① 小林委員より、企業分科会の内容について、資料に基づき報告がなされた
- ② 小林委員より、資料の変更点について報告がなされた
- ③ 原案にまとめられた3パターンの授業内容について、各担当企業より説明がなされた
  1. プロップモデリング課題についての説明（担当企業：株式会社 G-Style）
    - (ア) 実施期間、学生が費やせる作業時間を考慮し、キャラクタ制作ではなく簡易な題材のモデルとテクスチャ作成を課題とした
  2. アニメーション課題についての説明（担当企業：株式会社アレクト）
    - (ア) ゼロから制作するのは難しい分野なので、担当のアレクト社で基礎部分を制作した素材を提供し、Maya の基本機能を使用して完成まで制作を継続させる
    - (イ) 課題となるモーションリストを用意し、その中からできるだけ多くのアニメーションを制作する
      - ① 7種類を予定している
  3. エフェクト課題についての説明（担当企業：exsa 株式会社）
    - (ア) 2D デザイン志望者を対象としている課題である
    - (イ) キャラクタと組み合わせた作品を完成とするか、エフェクト単体での完成とするかを担当者で調整中である
    - (ウ) 製品レベルのクオリティを目標としてもらう
- ④ 質疑応答
  1. 学生への告知方法について
    - (ア) 遠方の参加校に対してどのように告知を行うか
      - ① 各校でアナウンスを行ってもらおう想定だった
        1. 課題担当企業から、直接説明できる場を設けることとした
        2. 遠方の学校については、上記会場からネット配信することを検討する
    - (イ) 告知から最終評価までのフローを確認したい
      - ① この会議にてフローを検討し決めていくこととした
    - (ウ) 対象学年について確認したい
      - ① 対象学年は2年課程の1年次学生とする
      - ② 該当学生が開催時期にどの程度の力量になっているかを想定し、課題を設定する
    - (エ) 評価基準について確認したい
      - ① 最終評価についてはWEBサイトでの発表を行う
        1. 採点基準について、CG-ARTS 主催のCG実技試験の評価方法について情報を提供いただき、参考とする
        2. CGWORLD 主催のコンテストにて運用されている評価基準の情報を提供いただき、参考とする
    - (オ) 中間チェック方法について確認したい

① ファイル共有サービスを利用し、中間チェックフローを確立する

1. 利用するサービスを担当企業に選定いただく

(カ) 表彰について確認したい

① あくまで学習成果を求める授業なので、賞を設けられるほどの課題ではないことを確認

1. 今回は賞を設けないこととした

2. 賞に伴うインセンティブについても、同様に設定しないこととした

(キ) 課題の実施スケジュールについて確認したい

① 概要に基づいて、最終評価の公開予定日から逆算しスケジュールを協議した

1. 企業側の課題仕様の提出予定日を9月20日とした

2. 各校への実施概要告知日を9月23日とした

3. 学生の応募判断期間を9月24日から9月29日とし、応募締め切り日を9月30日とした

4. 応募学生に対する課題仕様説明会の実施期間を、10月1日から10月4日とした

5. 中間提出日と中間評価期間を設けることとし、10月最終週から11月第1週の期間内で検討することとした

6. 成果物の提出締切日を11月29日とした

7. 公開予定日を12月10日とした

(ク) 各学校の参加学生数予想について確認したい

① 各校の参加学生数予測と参加授業について報告がなされた

1. 北海道芸術デザイン専門学校

(ア) 参加数 20名程度 モデリング、あるいはエフェクト授業に参加

① 課題の量的に問題がなければ、両方の課題に参加させたい

2. 日本工学院北海道専門学校

(ア) 参加数 5名前後 どの課題に参加するかは、現時点では未定

3. 吉田学園情報ビジネス専門学校

(ア) 参加数 20名程度 モデリングあるいはモーション授業を選択する想定

(ケ) 中間報告の手法について確認したい

① 中間報告に対する評価は、各校担当者を通して学生に伝えることとした

② 過程に対しての評価を与える

1. それまでに行った作業に費やした時間を、併せて報告させる

③ 課題ごとに内容が異なるため、課題作成時に中間目標を設定する

④ 期間中の1日ごとの作業時間平均を90分として課題を策定する

## 2. 教員向け最新CGツールセミナーについて

(ア) Houdini 講座、Substance Designer 講座、Substance Painter 講座について

① 日程及び開催要項について

1. 10月19日に実施することで確定した

2. 会場は吉田学園情報ビジネス専門学校とした

3. 機材は吉田学園情報ビジネス専門学校で準備することとした
4. 使用ツールはボーンデジタル社に一時的なライセンスを手配いただくこととした

② 参加予定者について

1. 各校教員参加予定数について確認した
  - (ア) 日本工学院北海道専門学校 イベント日につき参加が難しいことを確認
  - (イ) 北海道芸術デザイン専門学校 1～2 名を予定
  - (ウ) 吉田学園情報ビジネス専門学校 3 名を予定
2. 参加告知、募集範囲について
  - (ア) 本講座の運営特性上、最大 10 名程度が限度であるため、今回はトライアル開催とし委員会参加校内に限定する

(イ) ZBrush 講座、Shotgun 講座について

- ① 講義時間について
    - 1. Zbrush 講座が 4 時間、Shotgun 講座が 2 時間と想定して実施する
  - ② 開催日程を 11 月中として調整する
    - 1. 講師側の日程は調整可能であるが、11 月 3 日は不可である
    - 2. 参加者側の日程を調整した
      - (ア) 日本工学院北海道専門学校 11 月 9 日及び 16 日が不可
      - (イ) 北海道芸術デザイン専門学校 11 月 9 日が不可
      - (ウ) 吉田学園情報ビジネス専門学校 現時点では不可の日程はない
- ① 候補日を 11 月 30 日として講義担当者に確認し、問題なければ確定する

3. 専門学校生向け 3DCG フォローアップ講座について

(ア) 「モーション」講座の実施について

- ① 対象校を北海道芸術デザイン専門学校として進めている
  - 1. 講義内容はハンズオンでの実施となることを確認
  - 2. 開催時期は 10 月以降の平日を希望とし、日程調整を進める

(イ) 「モデリング」講座

- ① 対象校を吉田学園情報ビジネス専門学校として進めている
  - 1. 使用するツールをマッシュとし、吉田学園情報ビジネス専門学校内で実施する
  - 2. 開催時期は 10 月以降の平日を希望とし、日程調整を進める

(ウ) 開催内容の告知について

- ① いずれの講座も担当するボーンデジタル社と各校により調整を進め、詳細決定後に委員会参加校へ共有することとした
- ② 日本工学院北海道専門学校についてはいずれの講座を受けるか、講座内容のアレンジも含め別途詳細をボーンデジタル社と進めることとした

4. その他

(ア) 次回会議について

- ① 開催時期について
  - 1. CG 制作業務実践授業の中間報告提出前に実施し、参加学生の進捗状況などを精査したい

- ② 開催場所について
  - 1. これまでの会議は吉田学園情報ビジネス専門学校で実施していたため、遠方の学校が参加調整に苦心している
    - (ア) 次回開催を日本工学院北海道専門学校で実施することを検討する
- ③ 詳細について
  - 1. 時期と場所について後日調整し、決定する

以上